

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン**

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

「社会福祉法人AJU自立の家」は、名古屋市を中心に障がい者自身が福祉を創るという積極的な活躍を繰り広げておられる団体です。震災後釜石に入り、被災された障がい者のために、名古屋教区、自立の家、災害地障がい者支援センターと共に「被災地障がい者センターかまいし」を立ち上げ、救援・支援活動を続けておられます。今回はその働きを、スタッフの山口真登香さんよりご紹介いただきます。

こんにちは！

「被災地 障がい者センター かまいし」です

10月1日に開設1年目を迎える「被災地障がい者センターかまいし（以下センターかまいし）」は、釜石市甲子（かっし）町という場所にあります。私が初めて釜石を訪れたのは、昨年の震災からひと月たった4月でした。その頃、岩手県の被災状況を確認するために車で沿岸地域を走っていた私ですが、釜石がどんな街だったかも知らずに初めてこの地で見た光景は、「ここも、大変なことになっている」という印象だけでした。センターかまいしが開所し、私が釜石で暮らすようになってまだ半年ですが、私が生まれる前や、もっと前のこの街の様子を周りの方々に聞かせていただくうちに、とても魅力的な街だなあと感じるようになりました。少し紹介させていただきます。

「鉄と魚のまち釜石」と愛知県との関係

釜石市は、岩手県の南東部、陸中海岸国立公園の中心に位置し世界三大漁場の一つ、北西太平洋漁場の一角をなす三陸漁場と典型的なリアス式海岸を持つ市です。近代製鉄業発祥の地でもあり、最盛期の人口は9万人を超えることもありましたが、製鉄所の高炉の休止に伴い人口が減少し、現在は約3万7千人です。

私たちが釜石市にセンターを開設したこととかかわりがあるのですが、1960年代に釜石製鉄所の従業員のうち約1400人が、東海製鉄所（現在の名古屋製鉄）へ要員転出されました。従業員の家族を含めた多くの釜石市民が東海市に移住したことから、釜石市と東海市は姉妹都市提携盟約を結んでいます。

仙台教区サポートセンターのベースである「釜石ベース」の初代ベース長・小野寺哲氏からの要請を受け、釜石市とその周辺部での障がい者の現状などを調査した結果、昨年10月1日、当センターが開所しました。

1人1人に合わせた支援

センターかまいしでは、通院・通学・買物などの外出支援、入浴支援、傾聴などを行っています。

被災地特有のニーズであり、もっとも必要とされているのは外出支援です。被災した方々の仮設住宅が市街地から離れた地域や高台にあること、また、市街地にお住まいの方でも、障がいゆえに公共交通機関を利用しにくい環境にあることがその理由です。視覚障害の方や車椅子を利用している方などの外出のお手伝いを行っています。

入浴に関するニーズも、特筆すべきことです。仮設住宅の浴室は狭くて使いづらく、デイサービスは被災のために休止中だったり、入居

している仮設住宅が送迎範囲外といった事情により入浴ができない方への入浴介助を行っています。当センターにて入浴される方と、銭湯へ一緒に行き、見守り的な支援を行っている方もいます。

また、家や家族を失って心に痛手を負った方々の傾聴も被災地特有のニーズと捉えています。通院の際に車内や病院の待合室であふれ出すようにお話をされる方は少なくありません。パーキンソン病の方で、身体状況の変化が日内で激しい方は、介護保険制度による公的サービスで対応しきれない時間に訪問して傾聴させていただいています。

個別の支援以外の活動

支援活動の中で関わった方々に声をかけて、月に1～2回イベントや交流会を行っています。

先月、10名程お誘いして温泉施設へ行きました。行き先へ向かう車内はとても賑やかで、みなさん昔からの知り合いのような雰囲気でした。「こうして大勢で出掛けるのも遠足のようにたまにはいいわね」という声もあり、楽しんでいただけたのではないかと考えています。

サークル的な活動

センターかまいしでは、ご近所さんや繋がりのある方々にご指導いただき、手芸教室・パッチワーク教室・ハンドクラフト教室なども行っています。出来上がった作品は、名古屋に送って販売してもらい、



その売上はまた材料費として利用させてもらっています。作っている方が完成したその場で購入、ということもたまにあります。

昨年の震災では津波の被害が大きく、多くの尊い命が奪われてしまいました。今、センターかまいしで関わっている方のほとんどが、親、兄弟、親戚などいつも近くにいた身近な人を亡くされました。突然の別れの辛さや悲しみは、経験していない私が想像できるものではありません。最近では、復興事業の計画がいろんな場面で耳に入ってきます。変わっていくまちの風景をみて、あの日から少しずつ確実に前に進んでいることは、私でも感じます。10年後の釜石がどうなっているか、とても楽しみです。

「被災地 障がい者センターかまいし」

スタッフ 山口真登香（社会福祉法人AJU自立の家）